

「わくわく学校図書館フェア」で図書館とつながる

図書館をつなげる

島根県書店商業組合
株式会社 今井書店
井上 一真

「わくわく学校図書館フェア」は島根県書店商業組合の組合員である今井書店が主体となって山陰各所で開催している児童書フェアで、店頭ではなかなか目にすることの少ない子供向けの書籍に、学校の図書館担当教諭や司書の方々にたくさん触れていただきたい、との思いで2013年秋に始まりました。

単なる児童書の展示会にとどまらず、今や出版社も注目し参加するようになり年々進化する本のフェアをご紹介します。

<概要>

まずは簡単にフェアがどういったものかご覧いただきたいと思います。

会場内にはたくさんの段ボール箱が並んでいます。当社では通常、各出版社から送られた数箱の見本か、10数社のグループが集まって10箱程度の見本が入った段ボールを各学校などに持ちこむ、いわゆる「図書巡回」という校内展示会を行っています。ただ、この見本は大概、シリーズの全巻が入っているわけではなく、そのうちの1冊が入っているだけだったりします。

このフェアでは出版社が提供し、取次（問屋）が用意した、そのシリーズ全巻が見ることができます。会場の大きさなどにもよりますが、約20,000冊の図書を実際に見て触れることができます。

商品には短冊が挟んであり、来場者（司書）は自分の図書館に入れたいと思う商品の短冊を集めていきます。集めた短冊をPCに読み込ませリスト化。できたリストを学校に持ち帰り、選書資料として活用いただきます。

その場でのご注文も承ってはいますが、原則選書リストを作成するまでのフェアとなっており、自館に出入りする他の組合加盟書店にご注文いただいても構わない、というスタンスで行っています。

<導入>

図書取次大手：トーハンが全国4か所（札幌・京都・岡山・福岡）で行っていた「こどもの本ブックフェア」。当時のこのフェアの岡山会場へ私を含め今井書店が視察したのは2013年7月。地元の書店が集まり、基本的には近隣の学校向けに図書の選書・受注をするものでしたが、出版社のブースやキャラクターの着ぐるみなど一般のお客様に対してのアプローチもなされており、商品の購入もできるものでした。

その視察から2カ月後、当社はまず島根県側3か所（松江・出雲・浜田）で小中学校図書館向けに開催いたしました。初年度は3か所合計で来場館数がのべ49館と50館にも満たない状態でした。しかし、ご来場いただいた司書の方々には非常に好評で、翌年からは倉吉地区で開催、その次の年には米子地区、さらに翌年2016年には鳥取地区と当社外商営業所がある全地区での開催することができました。

<転機>

当初は企画力も弱く、内容にも乏しい面がありましたが、毎年、年度末にテーマを設けて事前アンケートを取ってリスト化し、掲示や配布をしたりして、司書の気づきに役立てていただいたり、情報共有の場として年々認知度が高まってきていると思います。また、アンケートで要望の高い図書を次年度に展示したりしてブラッシュアップし、満足度の高い内容に仕上げていきました。また当社内でも反省会を行い、事後アンケートをもとに次回開催のヒントを得ています。

近年は、当社とお付き合いのある出版社にご協力をいただき、営業担当・編集担当が直接フェアに参加し来場者の質問に直接答えていただきました。これにより来場者様も出版社も生で意見のやり取りができ、来場者様は疑問の解決になり、出版社は新たな商品開発のヒントになったりしてWin=Winの関係になっていると思っております。

2019年は島根県側では島根県立図書館様主催の学校司書研修と同日開催することとなり、飛躍的に来場者数が伸びることとなりました。昨年度（2020年度）は新型コロナウイルス感染予防のため、研修との同時開催ができず、フェアそのものの開催も危ぶまれましたが、浜田と倉吉を除く4か所で、自社倉庫を会場とし規模を抑え時間制限を設けたうえで、完全予約制ではありましたが何とか続けることができました。

2021年は両県各3か所・計6か所での開催。島根県立図書館様の司書研修との同時開催も必要な感染対策を講じ無事にでき、多くの司書の皆様にお越しいただきました。今回は書店組合事務局と共催で出版社とオンラインでつなぎ、商品のプレゼンを行っていただきました。

<今後>

現在、非常に多くの司書様にご来場いただいておりますが、県人口はもとより、児童・生徒・学校数の減少、それに伴う図書予算の減少と、厳しい環境ではありますが、書店と

してこのフェアがいつまで継続できるか不透明な状況ではあります。大型書店の無い山陰で、図書館の方々に現物選書の機会を提供し、1冊でも多くの本に触れていただくことにより、利用者に新しい本との出会いが創出できればと考えております。今後も県立図書館様と協力しながら続けていきたいと思っております。

新型コロナウイルスが収束した際には、時間制限も撤廃し、皆様に心ゆくまで選書いただきたいと思っております。その際はまた出版社もお呼びしながら、図書館＝書店＝出版社の良好な関係性を築いていけたらと思います。